

令和6年度

## 八重瀬町保こ小連携「架け橋プログラム」

～保育園・こども園の育ちと学びを小学校につなげよう～

### 研究主題「やってみないと心が動く保育・授業づくり」

#### 7月30日 こちんだこども園の公開保育



こちんだこども園では、3歳から5歳までの子どもたちが日常生活の中で、異年齢がお店屋さん、ラキュー、お化け屋敷、寒天遊びなどを楽しんでいました。その日も、3歳児、4歳児、5歳児が入り交り、5歳児のお店屋さんごっこに3歳児や4歳児を客として招いたり、一緒に遊んだりしていました。クラス間の保育教諭同士の連携や共有にもつながっていました。

#### 8月2日・5日 小学校、中学校の初任研・中堅研の保育士体験

8月2日・5日に小学校、中学校の初任研、中堅研の一環として位置づけ、こども園で2日間の「保育士体験」を実施しました。教育の基盤となる幼児教育を実際に肌で感じることで、教師力のスキルアップを目指しています。

##### 参加した先生方の感想

- 子どものやっていることを見取り、工夫していることをほめることが大切。教師が子どもの探求心を保障していく声掛けをしていきたい。
- 「楽しく遊ぶ」を小学校でも、子どもたちの興味を引くような掲示を工夫したり、主体的に行動したり学びたいと思えるような環境づくりを心掛けたい。



#### 8月8日 小規模保育園「きらら保育園」の公開保育



2歳児まで生活していた小規模保育園から3歳児になってこども園や保育園に入学する時に、子どもたちも保護者も安心して入園できるように、小規模保育園の公開保育も実施しています。子どもの発達と生活の連続性を考慮して、柔軟に対応できるように、入園前から情報交換や幼児同士の交流を行っています。

#### 8月23日 保育園・こども園・小学校の合同研修会 ～ひとつの単元を保育者と小学校教諭の協同で授業をつくってみる～

こんな授業を  
作ってみたい

八重瀬いもフェスティバル

季節トンネルを  
つくろう

ホロホローの森探検

東風平学園  
の秋まつり

八重瀬の秋

わたしたちの  
どんぐりの森

わたあ自慢の  
村あしび

子どもがつくる  
豊年祭

1年生「せいかつ」の教科書の「きせつとなかよしあき」の単元を保育者と小学校がひとつの授業をつくることを通して、幼児期の経験を小学校の学びにつなげるカリキュラムづくりを構想することを目的として取り組みました。

小学校に合わせるのでもない、また、逆に保育園やこども園にあわせるのでもない、子どもの経験から出発したワクワクする実践を組み立てました。



《 お問い合わせ | 教育委員会 学校教育課 保こ小連携アドバイザー | 098-998-7571 》



## 生活困窮子育て世帯・難病児等をもつ 子育て世帯への生活支援事業のご案内

沖縄県では、赤ちゃん用品の物価が高騰する中でも安心して子育てができるよう、対象のご家庭へミルク・おむつと交換できるクーポンを配布します。



詳しくはこちらを  
チェック

対  
象

A 0～3歳の乳幼児(令和2年9月2日～令和6年9月1日生)を育てる下記のいずれかの世帯

- ・非課税世帯
- ・生活保護世帯
- ・児童扶養手当受給世帯

B 小児慢性特定疾病医療費助成制度受給の方

詳細はホームページ(10月7日公開予定)をご確認ください。  
(<https://oki-kosodate-sien.com/>)

##### 《 お問い合わせ 》

子育て生活支援共同事業体  
沖縄子育て生活支援受付事務局  
専用コールセンター TEL 0120-025-125  
営業時間:9時半～18時  
土日祝日も営業(年末年始はお休み)

## 「養育里親」を募集しています

沖縄県委託事業



さまざまな事情で自分の家族と暮らせない子どもたちがいます。

その子どもたちを自分の家庭に迎え入れて、必要な期間豊かな愛情と正しい理解でその成長をサポートするのが「里親制度」です。子どもたちの健やかな成長と未来を支える為あなたにできることをさがしてみませんか？

詳しくは



☎ 098-994-5134 (社会福祉法人 袋中園)  
✉ satooya@taichuen.or.jp

たいちゅうえん

HPはこちらから



やえせの昔話 ①  
犬の足  
字東風平 出身  
【話者】大正7年生 男性  
昔むかし、犬は三本足で歩いてた。それで、神様がこれは、三本足ではとても歩きにくそうにして、  
「いねえ」と言って、「それでは、何から足を取って、犬にくっつけようかねえ」と思案なさっていた。すると、仏壇にずっと座っている香炉の足が四本あることに気が付いた。  
香炉はずっと仏壇に座らせてばかりいるものだから、神様は「香炉の足は三本で大丈夫だね」と思ったそう。それで香炉から足を一本、犬に分けてあげたので、犬の足は四本足になったそう。一本は犬にあげたからね、今の香炉の足は三本足になった。それから犬はね、「この足は神様からいただいた大事な足だから」と言って、おしっこをする時はいたいた足を濡らさないように、きちんと持ちあげて、用を足すようになったそう。はい、おしまい。

○今回、掲載した昔話は昭和57年～59年に八重瀬町内各字の皆様のご協力を得て収集した昔話の内の一話です。令和5年度より「八重瀬町伝承話資料保存継承事業」が始まり、この事業の一環で話者のご家族にその当時収集した昔話について、使用許諾を得られた話を紹介しています。